

## 道下大樹衆院議員と一区の会との国政報告・懇談会 メモ

主催：市民と野党の共闘を求め一区の会

1月14日(金)19:00～21:20 @エルプラザ 2F 環境研修室

参加者：19名 司会：福尾健司さん

(1)はじめに、

主催者が用意した3つの質問：

- 1, 道下さんの当選に市民と野党の共闘が果たした役割を、また1区の会と締結した政策共有をどのようにお考えか。
- 2, 今回の選挙結果をうけ、道下さん自身は護憲の立場から、今後の国会にどう臨むか。憲法審査会の状況も含めて。
- 3, 寿都町長の核ゴミ調査受け入れ表明で北海道に全国の核ゴミが来る恐れが出てきました。道下さんは核ゴミ問題をどう解決すべきと考えるか。

について、道下さんが以下のように考えを述べた。

(約30分：要旨)

悪天候の中、集まっていたいただきお礼申し上げます。私も空便やJRの遅れの影響を受けた。天気は変えられないが、政治は変えられると思っている。

- 1, 一区選挙区での当選は野党共闘はじめ多くの皆様のおかげ。小選挙区では、1対1の構図を作ることが非常に重要。共通政策について、何ら異存はない。
- 2, 総選挙後の臨時国会で憲法審査会を1回開催。改憲勢力がドバッと増えた感じ。コロナ対応や、対中国戦略などで改憲論議を吹っかけて来る。立民内では、改憲不要の反論を積み上げていく方針である。
- 3, 核ゴミ問題については、立憲としても、個人としても北海道に核ゴミを受け入れることに反対。交付金と引き替えの文献調査は即時中止を求める立場だ。将来的に核ゴミをどうするかについては、まず、核燃料リサイクルを止め、高レベル放射性廃棄物を発生させない。すでにあるものは、国民に正しい情報を伝えた上で熟議、熟慮の上国内で見える形で処分保管する。

(2)上記についての質問や意見

が出席者8名から以下のように寄せられた。

・国民投票法の改正案に対する付則を立民が提案、成立したが、単なる時間稼ぎではなく、具体的な改正案としてまとめることが肝要ではないか。

- ・選挙の時ばかりでなく、野党共闘を選挙民に分かるように日常的に訴えてはどうか
- ・「憲法審査会は自民 4 項目を発議するために」あるわけではない。憲法改定を国民一般が切実に求めてはいないことを憲法審で主張して欲しい。
- ・山花、辻元、本多など憲法問題の論客が落選したのは痛手ではないか。

・自民党は「敵基地攻撃論」を盛んに振りまいている。戦争法に反対したように国民的な運動でこれに対抗する必要があるのではないか。

・次の参院選では、立憲野党が 1/3 以上を取らなければならないと思うが、自民はどんな作戦を考えているのか？例えば、「改憲が争点」と宣伝して、生活苦しい人の選挙への関心を削ぐ）など。これまで、野党国会議員の皆様が良く「改憲の発議」を抑え込んでくれたと感謝している。今後、国会の外から市民運動としてどう呼応したらよいか？

・退職教員で、前回総選挙で市民と立憲野党の共闘がすばらしかった。今回は電話かけが無かったのがさびしかった。小選挙区では選挙時ばかりでない共闘が必要。

・関西生コンの組合員の弾圧事件とか非正規の公務員の状況、朝鮮人学校の教育無償化などを、議員さんは忙しい生活の中で知る余裕がありますか？どのように情報を集め、政策を立案するのですか。

・新型コロナ対策の予算が 70 兆円と言われますが、妥当性は検証されていますか？その財源は何ですか？

・デジタル化による監視社会をどう考えますか？

・新型コロナワクチンの接種順序ですが、社会的活動量の多い 20～50 代の優先順位を上げてはどうか？

・コロナ対策で大学生などに対するケアが不足しているのではないか？

これらの多様な質問、意見について、道下議員からは、個別に丁寧な応答がありました。(内容は省略させていただきます)

(3)最後に、

司会者の指名で、

日本共産党中央区支部の森英士さんから、改めて道下議員の再選について、祝意と激励の言葉が贈られました。立憲民主党の村上ゆうこ市議員からは、道下議員の 2 期目への大きな期待と、それを支える私たちの決意が語られました。

道下議員からも、感謝の言葉と、相手が怖れるような野党協力、多様性を認める共通政策、を武器に重責を担う決意が語られました。

(以上) 西岡記